

## 実践研究会を開催!

平成31年2月23日(土)第10回目の実践研究会を北方西小学校をお借りして行うことができました。今回も「**道徳教育を充実させるために!**」がテーマです。発表者は、北方町を代表して北方小学校・宮川和文教諭、瑞穂市を代表して本田小学校・大羽淳也教諭です。

ご多用の中、真桑小学校清水康孝校長先生はじめ多くの学校の先生幼稚園の先生、地域の方々で、32名の方々にご参加いただきました。

13時30分、**大野琴美副会長**(弾正小)の明るい弾むような進行の第一声で、華やかに始まりました。

まず、**森山政紀会長**の挨拶です。「ご支援いただくモラロジー研究所は、廣池千九郎博士の道徳科学の論文を学び、実生活で実行しようと努める団体です。発行物の一つに『道徳教育』がありますが、最新号に一昨年羽島会場で教えていただいた野口芳宏先生の授業案が載っていましたので紹介します。きっと、お役に立つと思います。私事で一年前に胃全摘手術を受けました。「何で自分が…」と思うのではなく

「恩寵的試練」という心遣いを学びました。だから驚きの18歳!水泳の池江璃花子さんが白血病に対する心境を綴ったブログには心底感動したものです。今回も真摯な実践を学べるお二人の先生をお迎え出来ました。参会者の皆様には、先生や子どもたちに真の道徳を広めるという大切な役割をお願いしたいと思います」

続いては、参加者全員の自己紹介で、和やかに進められました。



平成30年度 実践研究会

## 本校の道徳教育における実践について

発表者: 北方町立北方小学校 宮川 和文 教諭

北方小学校の教務主任として道徳教育推進の実務を担う立場から、実践内容を紹介していただきました。

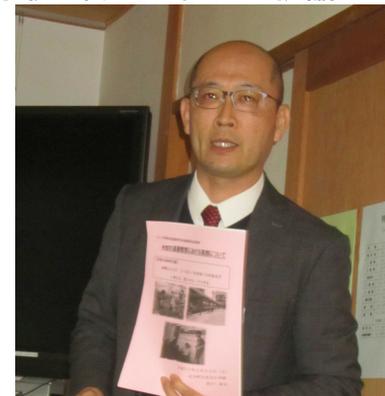
まず、校長先生の指導方針の下「仲間を思いやる心」を道徳の時間=教科等=特別活動=地域・家庭での一貫した取組として大切にされた活動の発表でした。

次に、教材『道案内』を使った5年生梅村和哉学級の授業実践を紹介していただきました。

ある日、ぼくと木村くんは「道に迷っている」おばあさんに出会い、道を教えようとして地図も描きました。でも、その後中学生がおばあさんと一緒に行こうとする姿を見て、少し反省したのでした。相手の身になってより「親切」にすることを学ぶ読み物教材です。

話し合い活動は、まず「おばあさんに道案内した気持ち」、次に「中学生の道案内を見た気持ち」を考えます。そして「道案内のやり方の違い」を考えます。「小さい地図」より「同行する」方がおばあさんにとっては良かったことから、「親切」な行為の意味に気づきました。自己の生き方を見つめる後段も子どもの素敵な反応がありました。

宮川先生は筋の通ったご指導をされる方です。「若手への指導」に関する参加者の質問にも「子どもにとって良いもの」を基準に指導されるとのこと。温かさ強い指導観を感じさせていただきました。



# 考え、議論する道徳への転換

～多様な方法を取り入れた指導の工夫～

発表者：瑞穂市立本田小学校 大羽 淳也 教諭

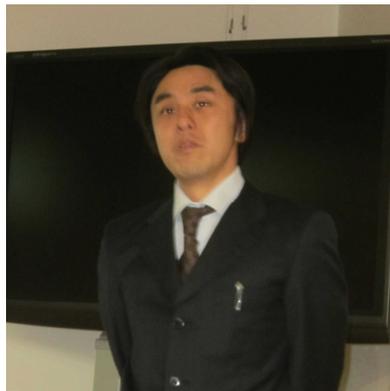
今「道徳科」の授業を象徴する「考え、議論する」子どもたちを育てようとして、大羽先生が取り組んでいる発表でした。

「考える道徳」とは、主体的に自分との関わりで、考え方や感じ方を明確にすること。「議論する道徳」とは、仲間の多様な考え方や感じ方と出合い、交流する中で、自分の考え方や感じ方をより明確にすることであるとの考えを示されました。そして、「読み取り道徳」からの脱却をするために「問題解決的な学習」「体験的な学習」を取り上げて実践されたのでした。今回は、2年生学級における実践でした。

まず「問題解決的な学習」では、「一りん車」の読み物教材です。「おいしいなというところを中心に探してください」と、子どもに視点を与え問題を生みます。話合いから「きまりを守るために大切なことは…みんなのことを考えてきまりを守る」と、先生が一つにまとめず個々に任せます。道徳的価値に関わって「個々がどう振り返っていたか」を大切にすると、ここに自我関与した個々の話が出てきます。

次に「体験的な学習」では、「たびに出て」の読み物教材を使って道徳的価値を確かめた後自分を振り返る話合いで、大羽先生が投げかけます。「スーパーにここにあいさつをしてくれる Rさんの…」すると「大羽先生、おはようございます」とある子がすぐ反応。その違いを考えます。名前付きあいさつは「これって先生だけ…」と振ると、多くの人のあいさつにつながりました。実際に体験をしながら…。

大羽先生は授業の映像を提供してくださいました。しっかりとした2年生の話しぶり。「追加・変化・強化」話し方指導が生きています。



(会場風景) 自己紹介は「春みつけ」の発表で

林 明夫顧問から指導助言をいただきました。

「お二人の先生方は、道徳教育の実践者として素晴らしいなど、感心させられる発表でした。北方小・宮川先生の発表では、子どもたちの良さを学校生活のあらゆるところで育てていこうという教師集団の意識の高さが伺えます。

本田小・大羽先生の発表では、道徳の授業に真剣に取り組んでいる子どもたちの様子が、授業記録と映像によって実に良くわかります。これまでの実践経験では、子どもたちの反応をまとめて先生が一般化を図るように考えていましたが、一般化を子どもたちに考えさせようとしていました。『考える道徳』の一つの方向性が見えてきます。

自己有用感を高める『良いことみつけ』ですが、良いことはいくつあるのでしょうか…。先生方には、内容項目の窓口で見て欲しいと思います。先生方が率先して見つけてあげて欲しいです。今日は名前を付けたあいさつの大切さも実感しました」

神谷 肇副会長より結びの挨拶がありました。本日の発表・参加



者へのお礼と、第55回教育者研究会における瑞穂会場へのご協力に感謝の気持ちを述べられました。これからも3つの心「感謝、思いやり、自立」を生活信条として大切にしていけることを話されました。

これにて平成30年度の行事も無事終了しました。

関係各位のご支援・ご尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。

参加して下さった先生方からは、貴重なご質問やご感想をたくさん出させていただきました。誠に有難うございました。

